

<b>Title</b>	経済地理学
<b>Author</b>	長尾, 謙吉
<b>Citation</b>	経済学雑誌. 別冊. 108 卷 2 号
<b>Issue Date</b>	2007-10
<b>ISSN</b>	0451-6281
<b>Type</b>	Learning Material
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学経済学会
<b>Description</b>	

Placed on: Osaka City University Repository

# 経済地理学

長 尾 謙 吉

## 1. 科目のねらいと進め方

経済学部の実用科目「経済地理学」は、2003年度より私が担当しています。2004年度は実用科目「都市経済論」を特別に担当したため非開講でしたが、例年講義を開講してきました。2007年度は、これまでの内容に修正を加えつつ講義を展開していく予定です。

シラバスでは、「講義の主題と目標」を以下のように述べています。

経済活動のグローバル化は、世界規模で経済や社会の同質化を進めて「地理の終焉」を導くともいわれます。しかし、グローバル化が進むなかで、世界の諸地域の多様性・異質性が増していることも確かです。こうしたグローバル化とローカル化の逆説的な動きを捉えるために、本講義では経済学に「空間」の概念をとり入れ、これによって、経済や社会が新しい空間を作り出してゆく過程を考察していきます。

経済学の基本を学ぶ際、空間は考察の対象とされず、ペン先のような「一点世界」で経済活動が行われることを（暗黙の）前提としています。経済地理学は、空間を考察の対象に加えて経済活動・社会活動を捉える経済学の応用科目です。

テキストは、水岡不二雄編『経済・社会の地理学』有斐閣、2002年を用います。テキストを中心に講義を進めます。（私も執筆者の一人なので後ろめたい面もありますが）説明に使う図表が多く掲載されていますので、講義には必ず

持参してください。なお、毎回、簡単な講義の流れや参考資料を含むハンドアウトを配布します。板書はほとんど行いません。2006年度より、皆さんが手持ち無沙汰にならないよう、数個の空欄をちりばめたハンドアウトを作成しています。

数回の講義では、日本語や英語のビデオを活用する予定です。2003年度には、カリフォルニア大学ロサンゼルス校のアラン・スコット教授に「グローバル都市-地域」についての特別講義をしていただきました（英語、若干の日本語解説つき）。2005年度と2006年度には客員研究員として滞在されていたミシャエル・プラトナー先生（ドイツのトリア大学）に、「旧東ドイツにおける半導体産業の立地再編」について講義をしていただきました。今年度も、こうした機会を設けることができればよいのですが、未定です。

講義計画は、テキストの流れに大まかに沿いながら以下のように進める予定です。

1. グローバル化とローカル化
2. 経済学が忘れてしまった空間
3. 空間の広がりや空間の距離・位置
4. 世界システムと国家領域
5. ネットワークによる空間の統合
6. 領域統合と土地利用調整
7. 建造環境と社会資本
8. 産業集積と企業間連関
9. 局地労働市場と都市空間の形成
10. 新国際分業と世界の経済地理
11. 「世界都市」をめざす都市間競争

## 12. 経済地理学の可能性

## 2. レポートとテスト——成績評価——

成績は、2度出題する予定のレポートと期末試験によって成績を評価する予定です（配分は未定）。講義中に出題する小レポートも加味します。提出課題が多くなりますので、覚悟のうえで受講登録してください。

第1回目の講義時に、開講時のアンケートについて説明します。アンケートでは、みなさんの所属学部・ゼミや出身高校などを聞くとともに、下記の事項について述べていただきます。

- ・グローバルとローカルについて持つイメージ
- ・受講理由と要望
- ・自己PR

グローバルとローカルについて持つイメージについては、テキスト『経済・社会の地理学』の序章に一橋大学の学生さんに聞いたものが載っています。自分の持つイメージと比較してみてください。受講にあたって積極的な理由がない人は、本講義の受講をやめた方がよいでしょう。自己PRは、どのような人が講義を受けているのか知りたいので聞いています。受講者に興味を抱いてもらえるような講義をするには、受講者（お客さん？）のマーケティング調査が不可欠です。協力よろしくお願いします。

開講時アンケートの未提出者は受講者リストから除きますので、提出忘れのないよう注意してください。

第1回目のレポートは、テキスト第5章までの内容を踏まえたものにします。課題として考えているのが、コンビニエンスストアなど商業・サービス業（施設）の立地です。

2006年度の課題は、以下のとおりです。

コンビニエンスストアなど商業・サービス施設の立地を、インターネット・電話帳・実地調

査などを通して地図上に示し、立地の特徴を考察すること。

（注意事項）

- ・指定の表紙を必ずつけること。
- ・分量は本文と地図や写真で、A4サイズ3枚から5枚が望ましい。
- ・自ら作成した地図を含めること。
- ・レポート作成で学んだことや苦労したことを最後に述べること。

第5章には、商業立地や都市形成を考える上で重要な中心地理論が紹介されています。みなさんも日常生活を通じて、百貨店・スーパーマーケット・薬局・酒屋など様々な商業施設が立地する場所の違いを感じていることでしょう。身近なコンビニエンスストアの立地を調べて、理論を活用しながら立地を説明していただきます。立地は、各種地図情報、タウンページ（電話帳）や企業ホームページを活用し、さらに実地調査を通して調べることになります。地図作成という楽しいお絵かき作業も欠かせません。

参考文献として、とりあえず以下のものをあげておきます。講義時にさらに詳しく提示・説明します。

〈コンビニエンスストアの立地に関する参考文献〉

- ・著本健二「流通革命——コンビニエンスストアの立地戦略」松原宏編『立地論入門』古今書院、2002年、98～107頁。
- ・著本健二「首都圏におけるコンビニエンスストアの店舗類型化とその空間的展開」『地理学評論』第71A巻(4)、1998年、239～253頁。
- ・荒木俊之「コンビニエンスストアと都市空間」荒井良雄・著本健二編『日本の流通と都市空間』古今書院、2004年、55～73頁。
- ・荒木俊之「岡山県におけるコンビニエンスストアの立地展開」『地理科学』第56巻(2)、2001年、88～107頁。
- ・土屋 純「コンビニの農山村地域への展開可能性」荒井良雄・著本健二編『日本の流通と都市空間』古今書院、2004年、155～172頁。
- ・土屋 純「コンビニエンス・チェーンの発展と全

国の普及過程に関する一考察」『経済地理学年報』第46巻(1), 2000年, 22~42頁。

〈他の商業・サービス業の立地に関する参考文献〉

- ・安倉良二「食料品スーパーの成長と再編成」荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』古今書院, 2004年, 133~154頁。
- ・箸本健二「『99円スーパー』はなぜ成長したのか」荒井良雄・箸本健二編『流通空間の再構築』古今書院, 2007年, 19~34頁。
- ・兼子 純「ホームセンター・家電量販店の展開と競合」荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』古今書院, 2004年, 173~191頁。
- ・武田祐子「保育所とスーパーマーケットの立地」『建築雑誌』第116巻(1470), 2001年, 34~37頁。
- ・宮澤 仁「今後の保育所の立地・利用環境整備に関する一考察」『経済地理学年報』第44巻(4), 1998年, 310~327頁。
- ・奥野隆史・高橋重雄・根田克彦『商業地理学入門』東洋書林, 1999年。
- ・山川充夫『大型店立地と商店街再構築』八朔社, 2004年。

〈中心地理論に関する参考文献〉

- ・ヴァルター・クリスタラー著, 江沢譲爾訳『都市の立地と発展』大明堂, 1969年。
- ・ブライアン・ベリー著, 奥野隆史ほか訳『小売業・サービス業の地理学』大明堂, 1970年。
- ・富田和暁『地域と産業 新版』原書房, 2006年。特に第3部。
- ・杉浦芳夫『立地と空間的行動』古今書院, 1989年。特に第2章。
- ・ピーター・グールド著, 杉浦章介・二神真美訳『現代地理学のフロンティア 上』地人書房, 1989年。特に第9章。

第2回目のレポートは、テキストの様々な内容が凝縮されている第9章「経済のグローバルな領域統合と『世界都市』をめぐる競争」の内容を中心に複数の課題から一つを選択してレポートを作成していただきます。

2006年度の課題は、以下のとおりです。

次の5課題のうち、1つを選択すること。

- ① 家電製品や食料品など身近にある商品がどこで生産されているのか調べ、企業立地や商品連鎖について考察する。比較考察することが望ましい。
- ② 企業のホームページや有価証券報告書などを利用して、特定の企業について世界規模での立地と国際分業について考察する。
- ③ 都市開発や農村開発の事例を取り上げ、開発政策の目標・手法・成果・問題点などについて考察する。
- ④ 交通・通信手段の発達による空間統合に関して、具体例を取り上げ、それがもたらした変化について考察する。
- ⑤ 土地利用の変化を観察し、結節点の影響力や距離減衰効果について考察する。

(注意事項)

- ・指定の表紙を必ずつけること。
- ・分量は本文・図表・地図などでA4サイズ3枚から5枚が望ましい。
- ・レポートの課題設定と結論を明確に述べること。
- ・参考文献, 図表の出典を明記すること。

こうした課題に取り組むためのヒントは、講義で提示します。生の講義には、インターネット講義とは一味違う様々なヒントが散りばめられています。担当教員として、講義に参加する価値が上がるよう努力するつもりです。

期末テストについては、論述形式でのテストとなります。2006年度のテスト問題は、本誌巻末に掲載されていますので参考にしてください。持ち込み可でテストを行っていますので、テキストや参考文献の丸写し論述では不可となります。(60分を予定している)限られた時間内に、自らの意見を交えて論述することが求められます。

経済地理学は課題が多く、(日本の大学の講

義になれた) 受講者にとっては大変かもしれませんが、よろしくお願いします。  
せん。知的 (地的?) 興奮あふれる講義を目指